



理工学対'イセタ'ニュース



2007.6

6月の開館時間

先月の入館者数
23,758 人

2007年6月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

 通常開館

月～金:8:45～21:30 / 土:8:45～20:00

 閉館

* 来月以降の開館予定は次のウェブページでご覧いただけます。

<http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/calendar/calendar2007.html>

* 塾内各地区メディアセンターの6月の開館日程は次のウェブページでご覧いただけます。

<http://www.lib.keio.ac.jp/schedule/200706.pdf>

目次

お知らせ	2
休講による臨時閉館に伴う返却資料の扱い	
企画展示第10回 『オイラーと数独』(仮題)	
雑誌の動き	2
『理工学メディアセンターニュース』100号記念特集	3～6
統計で振り返る理工学メディアセンターの10年	
電子図書館サービス	7
ScienceDirect e-Books (電子ブック) トライアル中	
CSA Illumina に外傷ストレス関連データベース「PILOTS」登場	
CSA Illumina の新機能 Discovery Links	
コラム	8
著作権メモ(35) 図書館で資料の貸出ができるのはなぜ?	

お知らせ

休講による臨時閉館に伴う返却資料の扱い

麻疹（はしか）の流行に伴う休講により臨時閉館（5月26日～6月1日）をいたしました。それに伴う返却資料の扱いは、全キャンパスメディアセンター共通で以下のとおりです。

返却期限日が5月26日（土）～6月3日（日）の資料

返却期限を6月11日（月）に延長いたします。

6月11日（月）までに返却された場合は、延滞の扱いにはなりません。

返却期限日が5月25日（金）以前の資料

カウンターでお申し出の上、6月2日（土）～6月11日（月）に返却された場合は、5月26日（土）以降の延滞料はかかりません。（5月25日（金）以前に発生した延滞料はかかります。）

返却期限日が6月4日（月）以降の資料

変更はありません。貸出時にお知らせした通りの返却期限となります。

ご不明な点は当センター閲覧担当（内線 40321）までお問い合わせください。

企画展示第10回 『オイラーと数独』（仮題）

9×9の正方形のます目に1から9までの数字を入れるパズル「数独」をご存知ですか？1997年、日本で紹介されたものが英国の新聞で取り上げられたことから、「SUDOKU」という名で世界各国にファンを増やしています。

この「数独」は、18世紀のスイスの数学者レオンハルト・オイラー(Euler, Leonhard, 1707-1783)が考案した「ラテン方陣」を元にしてできたものです。2007年はオイラーの生誕300年に当たり、地元スイスでも様々なイベントが開催されています。これを機会に、数独のもととなった論文を始め、オイラーの著作（三田メディアセンター所蔵、準貴重書）などを展示いたします。ぜひ足をお運び下さい。

期 間 ： 2007年6月23日(土) ～ 7月21日(土)

場 所 ： 理工学メディアセンター創想館1階

雑誌の動き

【受入中止】

- ・ International journal of applied electromagnetics and mechanics - Vol.18, no. 3 (2003)

【誌名変更】

- ・ Memoirs of the National Defense Academy. Science and engineering (前誌：Memoirs of the National Defense Academy. Mathematics, physics, chemistry and engineering)
Vol. 45, no. 1 (Sept. 2005) -
- ・ Proceedings of the School of Information Science and Technology, Tokai University
(前誌：Proceedings of the School of Information Technology and Electronics of Tokai University)
Vol. 31 (2006) -

『理工学メディアセンターニュース』100号記念特集

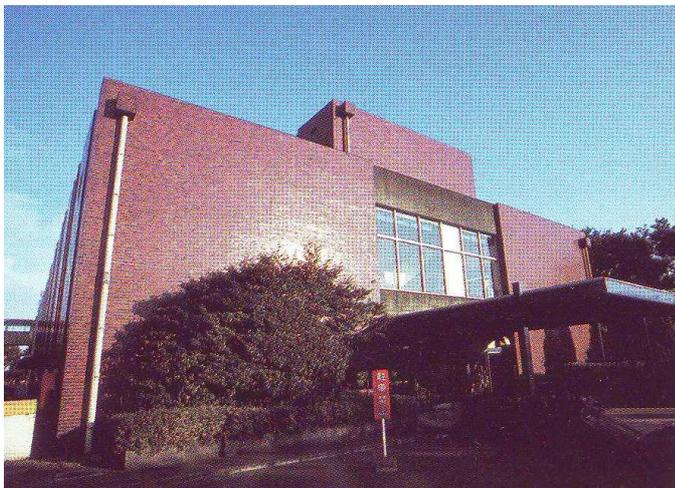
統計で振り返る理工学メディアセンターの10年

1998年10月に第1号を発刊以来、当センターのサービスや活動をお知らせするためにほぼ毎月発行してまいりました「理工学メディアセンターニュース」が、今月で100号を数えることになりました。当センターをよりよく活用していただきたいという想いを形にしてきたもので、これも矢上キャンパスを中心に塾内外で理工学メディアセンターをご利用くださる皆さまに支えられてきたお陰だと思いません。心よりお礼申し上げます。

前身は、1982年に創刊した「理工学情報センターニュース」に遡るようですが、ほとんど記録が残っておりません。その後、1989年から1998年まで「インフォメーション」が随時発行されました。当初は教職員の方々から寄稿していただいたコラムを主体に構成していましたが、徐々にお知らせを主な目的とするものになってきました。

そして「理工学メディアセンターニュース」に装いを改めてから足掛け10年。この10年は驚くべきスピードで情報環境が整備され、メディアセンターのサービスもWeb上での展開に軸足を移す側面と、場所としての快適環境を提供する側面に分化してきました。

ここで理工学メディアセンターの10年(1997～2006年度)を、施設、所蔵資料、サービスの観点で、

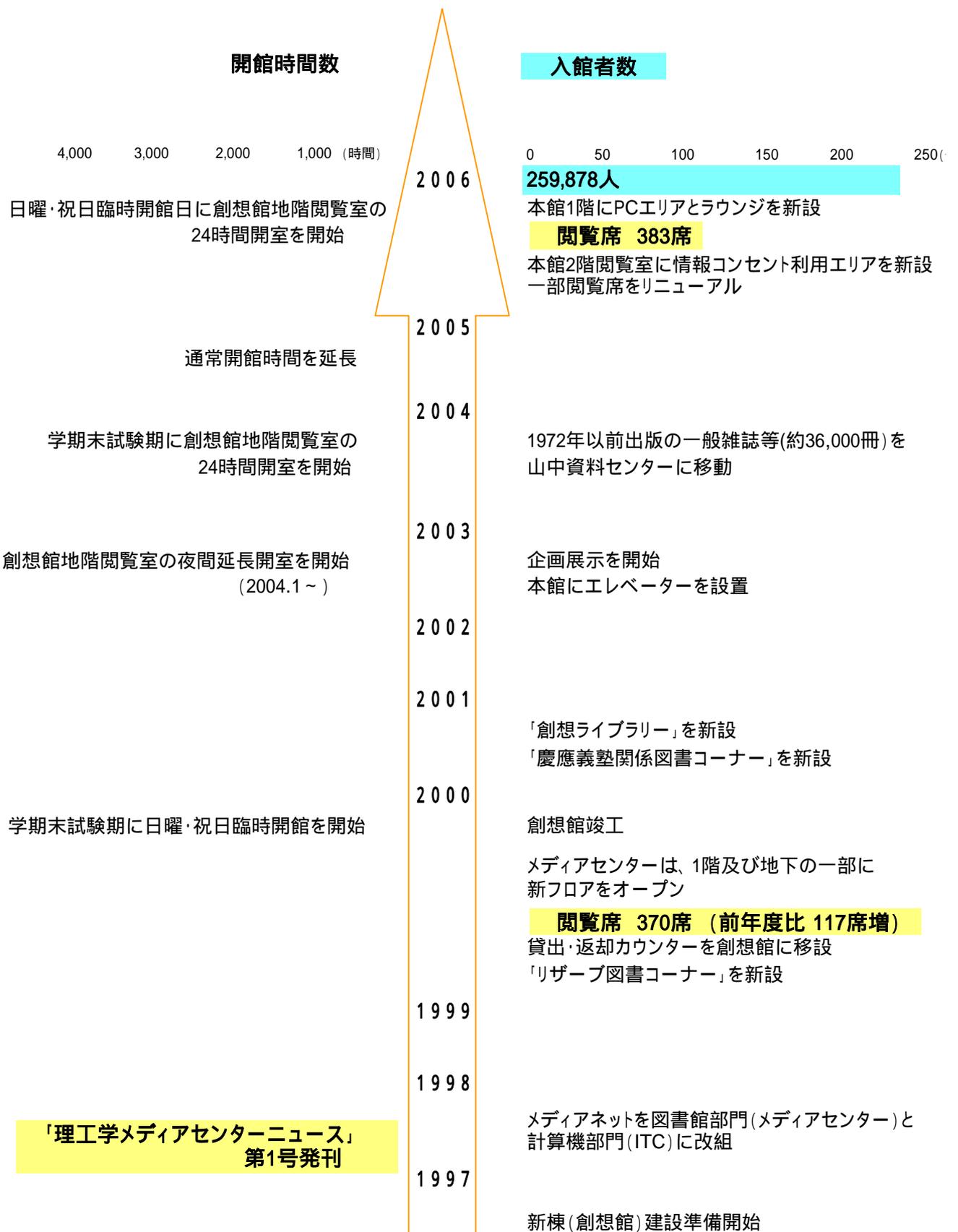


「理工学メディアセンターニュース」
第1号(1998年12月刊行)の表紙

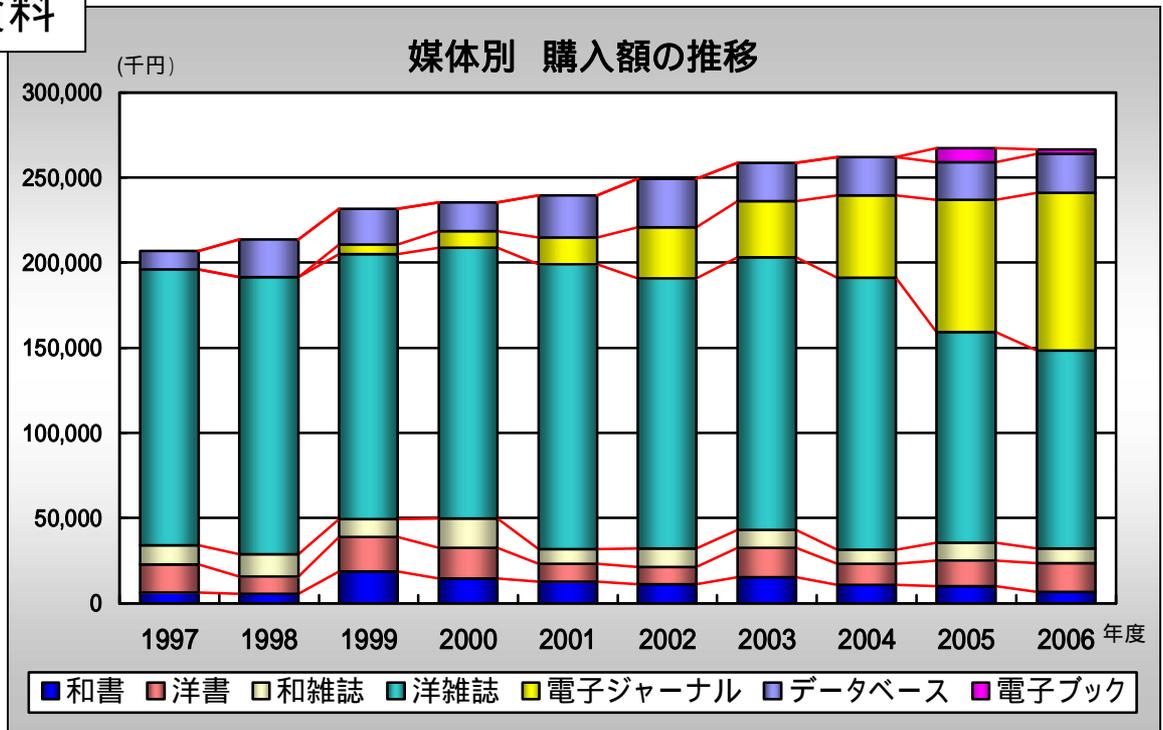
各種の統計数値から振り返ってみることにいたしました。そして、また次の10年のサービス展開に結び付けていきたいと考えています。

10年前の理工学メディアセンター
(15棟)
創想館建築準備が始まる1997年末までこの姿だった

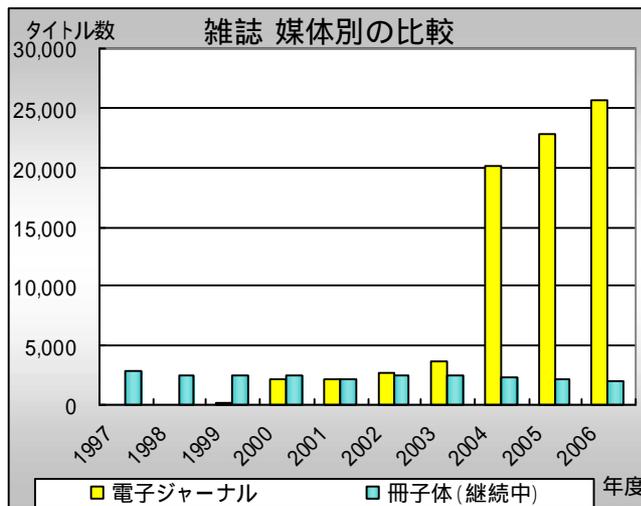
出典：理工学部卒業アルバム1994-1998



注) 内容は、年度ごとに記載
 開館時間数は、夜間開室時間も含む

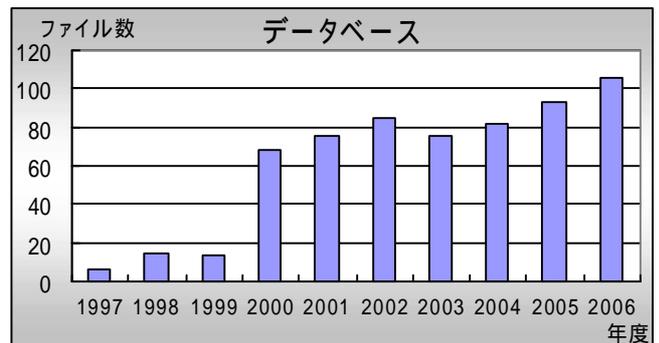


当センターは海外からの資料購入が多く、価格高騰と為替変動の影響は甚大です。1998年には継続購入資料の大規模な見直しを行いました。1999年から電子ジャーナル、2005年から電子ブックの購入を開始し、年々電子へと移行することで、限られた予算や書架スペースを有効に活用できるよう努力しています。



当センターでの電子ジャーナルの導入は、この統計に表れる以前の1996年にIOP(英国物理学会)学会誌の閲覧登録をしたときに始まり、学会・出版社の電子化の動向に合わせていち早く提供を進めてきました。その後、2003年に設立された私立大学間の共同購入であるコンソーシアム契約や、出版社を跨った一括購入を実現させ、2004年にはタイトル数が一気に膨れ上がりました。

徐々に減少している冊子体については、その多くが電子へ移行しています。



それまで CD-ROM だったものをインターネット経由に切り替え全塾で共有することで、2000年から利用ファイル数が拡大し、分野にも幅がでました。



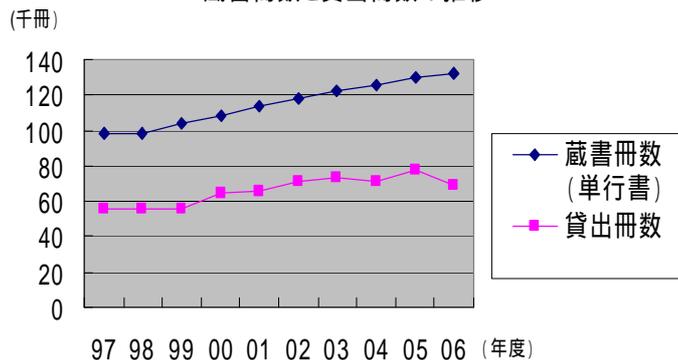
2004年から、他キャンパスで購入した電子ブックが全塾で利用できるようになりました。当センターでも2005年から購入を開始しています。

サービス

蔵書冊数と貸出冊数

当センターが所蔵する単行書の冊数は、現在 13 万 2 千冊、1997 年当時の 9 万 8 千冊から 3 万 4 千冊ほど増加しています。貸出件数も、1997 年では 5 万 5 千冊でしたが、現在では、6 万 8 千冊とほぼ順調に増加しています。

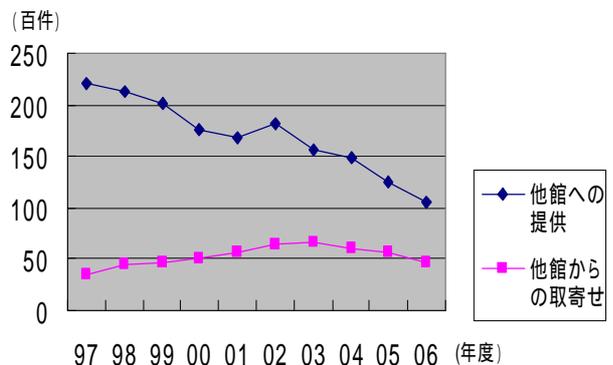
蔵書冊数と貸出冊数の推移



文献複写取寄せサービス

STM 分野において、かつて隆盛を極めたサービスが雑誌記事などの文献複写の取寄せサービスでした。1997 年当時、当センターでも年間 2 万件を超える学外からの申し込みを処理し、国内の学術情報流通の一端を支えていました。その後、インターネットの登場により、インターネット上でもプレプリントや雑誌記事が提供されるようになり、文献複写サービスは様変わりします。また大学図書館でも、複数の大学で複数の電子ジャーナルのアクセス権を一括で契約するなど、国内における学術情報へのアクセスが大きく改善されたことで、現在では他大学の図書館への提供件数はかつての半分に以下に減少しました。(* 2002 年は、国立国会図書館の関西館オープンのため、国立国会図書館の資料が一時利用停止になったことの影響で申し込み件数が増加しています。)

文献複写取寄せサービスの推移

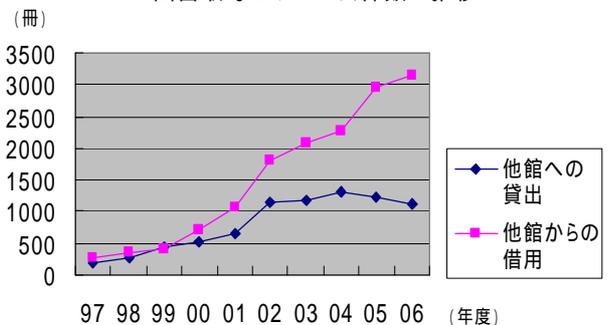


当センターが他の図書館から取寄せる件数も、2003 年以降電子ジャーナルの購入を積極的に進めたことで徐々に減少しています。

図書取寄せサービス

日本のインターネット元年は、1995 年とも 1996 年とも言われています。この直後から、メディアセンターでも OPAC の Web 対応に向けた開発が始まりました。現在の OPAC が Web に公開されたのが 1999 年 1 月。同時に塾内他キャンパス所蔵図書の取寄せサービスが開始されました。2001 年には、それまで運用を見合わせていた日吉メディアセンターと当センター間でのサービスも開始され、その後も塾内他キャンパスからの借用件数は順調に増加しています。現在では、申し込み件数も 1997 年当時の 6 倍となり、みなさんの学習・研究にとって、なくてはならないサービスとして活用されていることがわかります。

図書取寄せサービス件数の推移



電子図書館サービス

電子図書館サービスについてのご質問等は、当センターレファレンス担当
(E-mail: riko-mcref@adst.keio.ac.jp, 内線 40307) までお問い合わせください。

ScienceDirect e-Books (電子ブック) トライアル中

商業出版社エルゼビアが刊行した単行本のうち、Science & Technology 部門のほぼすべての学術書籍が電子化され、ScienceDirect 上での販売が予定されており、現在そのなかから約 500 タイトルがお試しで利用できるようになっています。トライアル期間：7月31日まで。

当センターホームページ (<http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/>) のトップメニュー「電子ブック」から、または「データベース」のトライアルデータベースから選ぶか、直接 http://japan.elsevier.com/sdsupport/ebooks_trial.html にアクセスしてください。

正式導入のご希望などは、当センターレファレンス担当（連絡先は上記）までお願いいたします。

CSA Illumina に外傷ストレス関連データベース「PILOTS」登場

CSA Illumina は Cambridge Scientific Abstracts 社が作成する文献データベースのインターフェイスです。義塾では「Aerospace & High Technology(航空・宇宙工学)」「Avery Index to Architectural Periodicals (建築・都市工学)」「DAAI: Design and Applied Arts Index (デザイン・工芸)」「Physical Education (体育・スポーツ科学)」などのデータベースを契約していますが、このたび、外傷ストレスに関する国際的な文献情報を集めた「PILOTS」もメニューに追加されました。これらのデータベースは、個別にでも、複数を指定し横断的にでも検索できます。

ご利用は当センターホームページ「データベース」の“論文の検索”から CSA Illumina 選ぶか、直接 <http://www.csa.com/htbin/dbrng.cgi?username=keioun&access=keioun29> にアクセスしてください。CSA Illumina の初期画面では Select: Specific Databases で検索対象としたいデータベースを選ぶことができます。

CSA Illumina の新機能 Discovery Links

上の記事でお知らせした文献データベースのシステム CSA Illumina に、新機能 Discovery Links が付きました。検索結果のサマリー画面、あるいは詳細画面に以下のリンクボタンが表示されます。



リンク先は、NASA(National Aeronautics and Space Administration)所有のイメージデータベース、世界中の主な学術図書館の所蔵情報が確認できる Open WorldCat、および Wikipedia で、検索結果内容に関連する情報へのリンクが表示されます。活用してみてください。

著作権メモ (35) 図書館で資料の貸出ができるのはなぜ？

前回の著作権メモ(34)では、大学図書館において著者の許可なしに著作物が「複製」できる著作権法上の根拠およびその条件をご紹介しました。では、大学図書館において著作物の「貸出」ができるのはどうしてでしょうか。ここでは、図書・ビデオ・図書付録の電子メディアの3種に分けてご説明します。

図書

著作権(財産権)のひとつに、著作物を公衆に貸与する権利 = 「貸与権」があります(著作権法 26 条第 3 項)。この権利が導入された昭和 59 年著作権法改正当初より、図書・雑誌の貸与については当分のあいだ著作権者の許諾が不要とされていましたが、平成 16 年の法改正により原則として許諾が必要となりました。ただし、以下の条件を満たす場合には著作権者の許諾を得ることなく公衆に貸与することが例外として認められており、大学図書館での図書の貸出はこれに当てはまります(著作権法 38 条第 4 項)。

- ア 既に公表されている著作物であること
- イ 営利を目的としていないこと
- ウ 貸与を受ける者から料金を受けないこと

ビデオ

ビデオなどの「映画の著作物」については、上記の図書とは異なり、大学図書館においては著作権者の許諾を得ずに貸与することは認められていません。したがって当センター所蔵のビデオ/DVD については各々出版者に確認をとり、貸与の許諾が得られたもののみ「貸出可」のシールを貼付して貸出も行い、それ以外は館内AVコーナーでの視聴に限っています。

図書付録の電子メディア

図書付録の CD-ROM/フロッピーに含まれるソフトウェア等 = 「プログラムの著作物」は、上記の「映画の著作物」に含まれないため、法的には図書と同様に貸出可能と解釈することもできますが、著作権法制定当時は今日のような容易な複製が想定外だったことを考慮すれば、一概に結論付けることはできません。またソフトウェアによっては、独自の使用条件を設けているものもあります。したがって当センターでは「映画の著作物」同様、各々の CD-ROM/フロッピーについて出版者に貸出の可否を確認し、ケースに応じて「館内利用のみ」「著作権法上ご利用できません」と明記したシールを本体(図書)に貼付しています。

このように、図書館資料はその形態に合わせ、著作権を考慮することではじめて貸出に供することが可能になっています。皆さんもこの点に留意してご利用下さい。

館内の空調について

理工学メディアセンターでは外気温度が 26℃、湿度が 60%以上の場合を基準に冷房装置を稼働させています。設定温度には配慮しておりますが、暑さを感じる際には窓を開けるなどして、省エネ対策にご協力いただきますようお願いいたします。

発行 : 慶應義塾大学理工学メディアセンター
E-mail : riko-mcinfo2@adst.keio.ac.jp

Home Page : <http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/>

本誌の電子版のご利用はこちらから <http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/mcnews.html>